

ヨハネの黙示録 第2章 10節

「あなたがたが受けようとしている苦しみを恐れてはいけない。見よ。悪魔はあなたがたをためすために、あなたがたのうちにある人々を牢に投げ入れようとしている。あなたがたは十日の間苦しみを受ける。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう。」

苦しみを受けようとしているからして、その時がいつであるかは不明だが、将来必ずおとすれることを示唆している。その苦しみをもたらすのは何か明確にしている。さらには、苦しみの目的は何か、そして、苦しみが延々と続くものではなく、ある期間のことが明らかにされる。苦しみの直撃を受けるが、元凶がなにか、目的は何か、定めの間があることを予見できることは、すでに救いである。

さらに言えば、忠実な歩みを続けなさいといわれる。それも、死に至るまで忠実であれ、といわれる。何に対して、どなたが忠実であれと勧告しているのだろうか。それは、苦しみを恐れてはいけない、といわれるお方に忠実であれということだ。それは、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう、といわれるお方への忠実である。この死に至る忠実な歩みは、忠実な者の内に宿るのではなく、お語りになる方の信実にある。